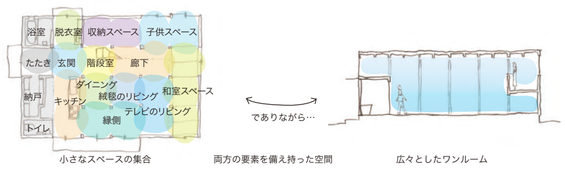
列柱がずっと続いて行くような広がりのある空間となっている

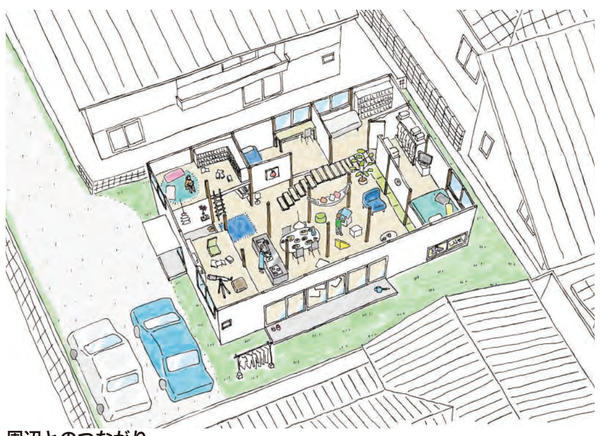
幸田町の住宅　列柱がつくる賑やかな住空間

計画地は名古屋南方の幸田町、幹線道路から離れた静かで落ち着いた街区にあり近隣は小さいながらも庭を持つ木造 2 階の住宅が多く建ち並ぶ。周りを囲まれた旗竿地が敷地で夫婦と子供 2 人のための平屋建の住まいが求められた。そういった条件のもと閉鎖間を感じさせない空間をつくりたいと考えた。

僕は休みの日は時計を見ながら過ごす。時計を見ないで過ごす休日はテレビを見ながらゴロゴロして一日が終わってしまう。そんなことからせわしなく急いだりはしないが、時計を見ながらだとペースを掴むことができて自分にとっては充実して一日を過ごせる。この住宅は 1.82m 毎に柱が建ちリズムをつくりながら緩く空間を分けることで限られた空間を多様なものにしている。

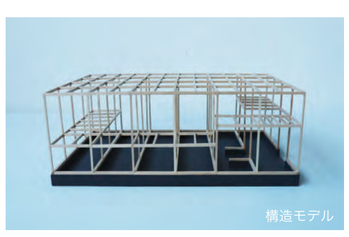
材料規格から考えはじめた 1.82m つまり 1 間はおなじみの日本の伝統的な身体モジュールでもあるが、全体を 1 間で計画すると十分な広さの場所ばかりではない。しかし敢えて 1.82m のモジュールで計画を行った。4 人掛けダイニングと掃出し窓の縁側スペースとの関係性、座位高さの畳スペースと大きな空間となる LDK との連続性など、柱により分けられたスペースがひしめき合って混じり合う。建て方の時は均質で整然とした雰囲気だったが、家具が置かれクライアントの生活が始まりそれぞれのスペースが干渉し合うことで個性的な空間の広がりと暮らしの賑やかさが現れてきた。





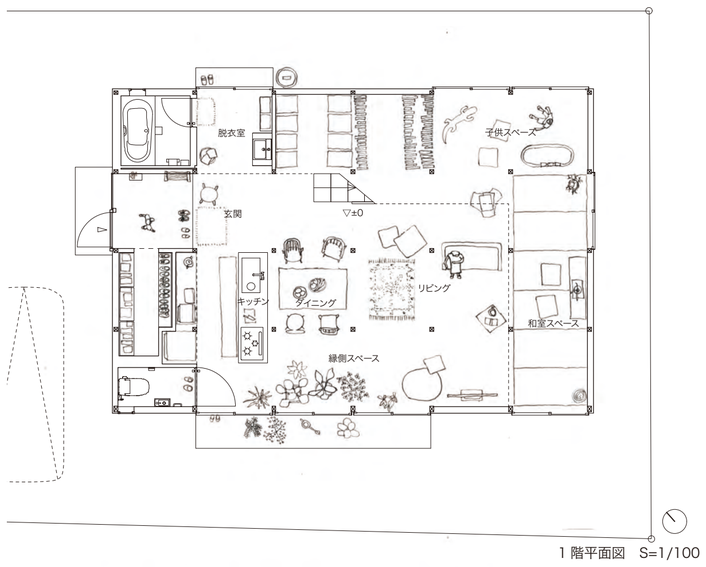
周辺とのつながり

列柱がつくり出す小さいスケール感は敷地の路地や建物外周の庭、隣家同士の隙間など周りのスケールに親近感が湧くものとなっている。前面道路がこの住宅地に住んでいる人のための道であることや、周りは見知ったお隣さんで安心感があることもあって、大きな開口部を持っている訳ではないが、中に居ても街の環境と一体性が感じられる空間となっている。

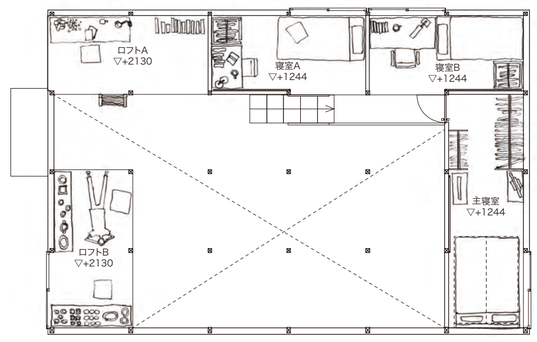


構造モデル

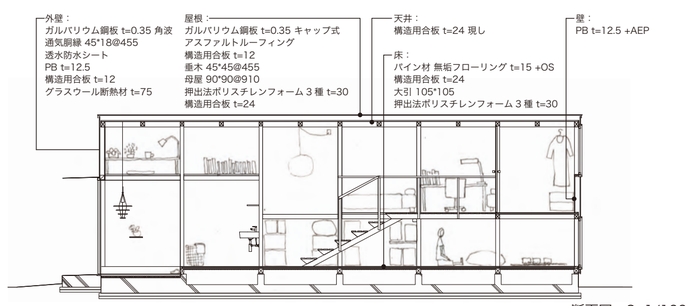
現場上棟



1 階平面図　S=1/100



2 階平面図　S=1/100



断面図　S=1/100

立面図　S=1/200

建築概要
主用途：専用住宅
階数：平屋
敷地面積：261.09 ㎡
延床面積：79.66 ㎡
建築面積：79.66 ㎡
構造：木造

構造について

柱は流通している製材で最小寸法である 90 角とし、家具スケールに近づくことで生活が始まり、様々なインテリアが増えて行く中で埋もれてゆく。また梁も柱も等価断面とすることで抽象度の高い軽やかでバランスのよいボリュームを実現している。耐震計画については耐力壁を外周部のみとし、外周部に配されている床やロフトは風圧対策としても効果的であり意匠と構造が一体で設計された合理的な計画といえる。

敷地は住宅地の中の旗竿地である

ボリュームは周りの建物に比べ一回り小さく、平屋建てほどの高さとなっている

大きな扉を開閉することで光や空気の流れが変化し空間の雰囲気が変わる

内観は天井の高い空間の中に床レベルの異なるスペースがある

LDK の天井高さは 3.4m、柱間で開口を設け開放的

ロフトは天井高 1.2m、旦那さんの趣味スペースとして使われる

それぞれの寝室の開口部は LDK から外を見通すことができる

窓に面した場所は明るく、縁側スペースとなっている

寝室は 4 畳の小さな部屋だが大きな扉を開くと LDK の一部のような空間となる

和室や子供スペースは LDK の隣で床レベルを共有し、座って過ごす